

「子ども」から「おとな」へ

現代バングラデシュの青年期と社会変容

南出和余 (日本学術振興会特別研究員)

本研究は、現代バングラデシュ農村社会における青年期(10代後半)に焦点をあて、当該社会における「子ども」から「おとな」への移行の在り方と、そこに見られる社会変容を明らかにすることを目的とする。

長寿化や社会状況の変化にともなって、現代、人間のエイジング過程は劇的に変化している。多くの社会で、子ども時代は止めどなく長期化し、結婚・出産時期の高齢化にともなって、世代間の年齢差も広がりつつある。さらに現代社会では、「おとなになる」という移行期の不明瞭化も問題となっている。ことに日本では、モラトリアム期と呼ばれる社会的義務の遂行猶予にとどまる時期が長期化し、『子どもから大人になれない日本人』[深谷昌志著、リヨン社、2005年]という指摘も見られる。また、人生の一連の時間軸に人工的な区切りをつけ、加齢に段階的な意味を付してきた従来の通過儀礼は、今日では形式化の一途をたどり、そこに段階的移行と役割を自覚することも少なくなった。従来、文化人類学が課題としてきた「ライフサイクル」や年齢組に課される社会的立場づけと役割の理解は、今日の社会では大きく変化しているばかりでなく、一概に捉えることさえできなくなっている。ライフサイクルという全体像が捉え難くなっている現代、発表者は、個人のエイジング(加齢)という動的視点から、人びとの人生を考える方が有効なのではないかと考える。また、これまでは「子ども」「若者」「老人」というカテゴリーで各年齢層を捉え、その境界を、社会が用意する通過儀礼によって理解してきたが、個人のエイジング過程において、境界がいかに形成され、その前後で何がどう変わるのかを捉える方が、変動する現代社会においてはより現実に沿っているのではないかと考えている。

こうした問題意識から、本研究では、バングラデシュを事例に、エイジング過程のなかでも特に「おとなになる」という移行期に着目し、その移行の在り方を、現代社会に照らし合わせながら捉える。

発表者は2000年以来、バングラデシュ農村社会(中央北部ジャマルプール県)の子どもを対象に、子どもの生活世界と社会化、そこに見られる学校教育(教育機会)の影響について研究してきた。発表者が対象としてきた子どもたちは、1980年代後半からとくに広がりを見せるNGO学校に通う子どもたちである。彼らの多くは、学校に通いはじめた第一世代であり、親たちの多くは学校に通った経験がなく、子ども時代の過ごし方において、世代間に大きな相違が見られた。学校に関しては、親よりも子どもたちの方が「よく知っている」という実態と認識のもと、子どもたちは、学校選択において、ある種の主体性をもち、彼らなりに学校の時空とその意味を形成していた。発表者が2000年と2004年のフィールドワークにおいて対象とした子どもたちは、現在10代後半になっている。本発表では、こうした子どもたちの2009年の現状を基に検討する。2004年に小学校5年生に在学していた16人のうち半数が、2009年時、中学校に通っていた。また、2000年に同小学校4年生に在籍していた22人(2009年時17歳前後)のうち、教育を続けていたのは3人であった。教育から離れた子どもたちの多くは、首都ダッカへ出稼ぎ(主に縫製工場労働)に出たり、女子の場合は結婚している。つまり、彼らの青年期(10代後半)の進路としては、中等教育、出稼ぎ、結婚に大別され、ここに社会的役割の移行期を捉える事ができそうである。さらに興味深いのは、これらの各進路間を、子どもたちが往来していることである。例えば、学校を辞めて一度はダッカに働きに出たものの、帰ってきて再度学校に戻る、ということも見られる。あるいは、本来バングラデシュのムスリム社会は父系制社会であり、結婚した女性は婚家居住が一般であるが、多くの女子が、結婚後も実家と婚家を頻繁に行き来し、実家で生活するケースも少なからず見られた。その背景には、現在、結婚相手男性の条件として賃金労働を挙げる家庭が多く、農村では賃金労働の機会に限られるため、必然的に結婚相手がダッカなど都市で働いていることが多くなる。したがって、日常は夫不在の結婚生活となり、そうした家庭では、妻が、夫の不在中は実家で暮らすということも多い。そうした既婚女性のなかには、実家から通学を続けるケースも見られる。さらに、通学と結婚、あるいは通学と就労の間にはグレーゾーンともいえる「何もしていない」「ぶらぶらする」時期が存在する。この「何もしていない」「ぶらぶらする」時期を規定し、移行を促すものは何なのか。

本発表では、こうした青年期の「おとな」への移行期の「ゆれ」、それを規定する内のおよび外的力を、彼らの現状とインタビューから捉え、青年期の在り方から現代バングラデシュの特徴を明らかにしたい。

【 子ども、青年期、エイジング過程、バングラデシュ 】